

自作教具の活用事例

<p>【作品名】 お手玉キャッチボール</p>	<p>【学校名】 日立市立大沼小学校</p>
<p>【活用できる領域・教科等】 自立活動・ビジョントレーニング</p>	<p>【制作者名】 西野 恵子</p>
<p>【制作の意図】 目に見えるものと自分との距離感をつかむことができる。 また、お手玉を最後まで目で追うビジョントレーニングができる。 さらに、見る・考える・動かすの連動性を高め、不器用さの改善ができる。</p>	<p>【使用方法】 お手玉を投げてカップの中に入れてトレーニングする。お手玉を最後までしっかり見てカップの中に入れるようにする。入らないときは、距離を縮めて行い入る位置から始める。入ったらどんどん距離を離していく。お互い交互に行いカップに入れていく。</p>
<p>【制作上の工夫】 児童の手にしっかり収まる大きさのお手玉にした。本物のあずきを入れ、握り心地や重さも児童が持つのにちょうどよくした。</p>	<p>【見取り図】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 初めに床に印をつけて距離を決める。 ② 印のところまで離れたら、教師がお手玉を児童に投げる。児童はもっているカップにお手玉が入るように最後までお手玉を見て入れる。 ③ 出来たら投げる役と取る役を交換する。 ④ 少しずつ距離を離してくり返し行う。 <p>* 児童同士で行ってもよい。</p>
<p>【写真】</p> 	<p>【使用効果と応用発展】 相手と自分、物と自分など空間的な距離感を感じることができ、力の加減やコミュニケーションがとりやすくなる。また、落ちてくるお手玉を最後まで見ることで目の上下運動のトレーニングになり、黒板からノートに写すときの力がつく。 教師とのトレーニングだけではなく、友達同士でキャッチし合うことで、相手がとりやすいようにという意識を持たせ、相手を思いやる心を育むこともできる。</p>
<p>【材料・材質・部品等】 お手玉：布・あずき・糸・針 カップ：透明のアクリルのコップ</p>	